

Ⅱ 各学部・学科・専攻専門教育科目の履修

人文社会学部 言語文化学科 日本語日本文化専攻

教育目的

本専攻の教育目的は、グローバル化が急速に進む現代において、「世界の中の日本」という観点から、日本語および日本文化を広範かつ専門的に学び、これを国内はもとより、世界に向けても正しく発信することができる人物を育成することである。カリキュラムにおいては、言語・文化・文学・歴史のコア分野を設け、分野ごとに古代より現代に至る様々な文献・資料を精読することを重視している。これらの講読を通じて、日本語日本文化にまつわる諸問題の考察を積み重ね、かつ幅広い視野や実証的なものの見方を基盤とする論理的な思考力や創造力、そして豊かな人間性の涵養を図る。本専攻では、言語は文化であると同時に、文化は言語であるとする意識を明確にするとともに、現代に生きる教養人としての学識を確実なものとする。こうした学識・教養に裏打ちされたより高度で豊かな真の国語力を修得した、いわば「国語のプロフェッショナル」として、社会に貢献できる人物を輩出したい。

到達目標

本専攻の学修の到達目標は、その教育目的に鑑み、主として、「読む」「書く」「聞く」「話す」という四つの言語領域すべてにおいて、より高度で豊かな言語運用能力を身に付けることである。まず、「読む」領域では、専門的な学術論文レベルの文章でも精確に読解できるようになることを目標とする。「書く」領域では、小論文から卒業論文レベルまでの論理的文書を、構成面・叙述面ともに体裁の整った明確な文章を書けるようになることが目標である。「聞く」「話す」領域では、相手の発言を正しく理解し、過不足無く自己表現できるコミュニケーション能力の涵養を目指す。もちろん、これらの言語運用能力は、日本語日本文化についての学識・教養を基盤とするものでなければならない。このように、あらゆる職種において活用できる高い国語能力を身に付けた学生には、将来的には、中学校や高等学校の国語科教員、公務員、マスコミ・出版・旅行業界など、さらには、日本語を母語としない人々を指導する日本語教員などの分野での活躍が期待される。

履修の仕方

まず、1年次には、日本語日本文化の基礎を幅広く学びながら、自分の希望や適性と照らし合わせて、専門分野の把握に努めてもらいたい。とりわけ、読解を中心とする「基礎講読」の授業を通して、大学での学問・研究の方法を知り、学力の基礎固めをすることが目標である。また、国語科教員を志望する者は、1年次から計画的に教職課程を履修していかなければならない。ついで、2年次には、より専門的な「講読」の授業を通して、専門分野ごとの文献を精読し、その分野の専門的知識や理解を広め、かつ深めて、各自の専門とする分野を探ることが望まれる。そして3・4年次では、分野別に分かれての専門性の高い文献を講読する「講読演習」の授業で、自分自身が選んだテーマについての研究を深めてもらいたい。その分野での高度な専門性を身に付けることは当然のことだが、また、先に述べた「国語のプロフェッショナル」としての十分な読解力と表現力とを修得すべく努力しなければならない。